

## ●Nancy Telfer (1950～)

ナンシー テルファーはすでに日本でも人気の、カナダ生まれの女性作曲家です。合唱指揮者として活躍する傍ら、合唱・吹奏楽・オーケストラなど多彩な作品を創作しています。作品は、ラテン語や英語による敬虔な宗教曲から、テルファー自身の詩作による自然保護の視点を持つ作品、また、ア・カペラ作品だけでなく、打楽器や動作を伴う作品など多岐に亘っています。また、世界各国の学校や合唱団、イベントからの委嘱も数多く、精力的な活動で世界の音楽教育に多大な貢献をしており、音楽を広い視野で捉え、表現の可能性を追求する姿勢は、今、高く評価されています。作風はシンプルで美しく、初心者でも合唱を楽しめるように工夫されています。La Campanellaでは昨年の「Missa Brevis」に続き、2年続けてテルファーの作品を演奏いたします。

## ●Gloria

Gloria / Laudamus Te / The Invocations /

Qui Tollis Peccata Mundi / Quoniam Tu Solus Sanctus

このグローリアは、イギリスのヒルズボロウ少女合唱団の委嘱で作曲されました。全5楽章で構成される無伴奏同声合唱のための曲です。通常は一曲で作曲されることが多いグローリアですが、その場合でも、歌詞の段落ごとにテンポや調性がドラマティックに変化するものです。この作品はグローリアをI～Vの5曲に区切ることで、より深く歌詞の内容を理解し、表現できるように工夫されています。5曲の中から数曲取り出して演奏することも可能です。

テルファーは、新しく宗教音楽を作曲する前にはいつも、そのテキストについて思いを巡らせ、それぞれの言葉の内なる意味を新たに見つけ出し、それを音楽に反映させようと試みるのだと言います。その作業は、時には難しいパズルのようでもあり、逆にいとも簡単にできてしまうこともあるとのこと。このグローリアはそのどちらだったのでしょうか？音域に無理がなく、最後まで3声のまま進みます。難易度は低くても、美しく効果的な作品です。テルファーのシンプルで澄んだ音色、空気がうまくかもし出せれば、いいなあと思っています。